

平成 30 年 7 月 17 日(火)

## こころとからだの理解授業 ～連合反応について～

今日は、高齢者複合施設銘仙の家の施設長であり理学療法士の井上様と、他施設の専門職の方々による特別授業を行いました。

麻痺が起こるメカニズムを学習



実際に麻痺のある方の映像を見て真似をする。

テーマは「麻痺のある利用者への支援」です。

特に今回は、「麻痺を体感する」ということをメインに演習しました。

実際に麻痺のある方の普段の様子を映像で観ながら、腕や脚の動きを忠実に生徒が再現し、その状態での歩行や着脱を各自行いました。



麻痺のある方の歩行の様子を再現する。  
拘縮により、関節がどのような状態になるのかを意識して動く。

着脱を再現する。思った以上に、拘縮した体で動くことが大変なことに気がつきました。



麻痺のある方の困難さは想像を遥かに超えていました。

ただ動かないというだけでなく、腕や脚が外や内にねじれていることで、歩行時にバランスがとりづらく、着脱の際は、それらがひっかかり、なかなか脱げず、着られませんでした。

自分で体感した後に、その状態のまま、他者に支援してもらおうということを体感しました。

「痛い!」、「苦しい・・・」などの声があちこちで飛び交いました。

ここでも、困難さを体感し、無理矢理脱がせることがどれだけ利用者にとって不安であり、ストレスになるかがわかりました。



麻痺の状態です実際に介助を試みる

麻痺がある方には、他にも合併症として、さまざまな症状があり、それは利用者、ひとり一人が違うものです。

その症状を理解し、その方に合わせた声掛け、介助方法を考える力が必要であることがわかりました。

貴重な体験でした。ありがとうございます。

